

TRANSITION TO HEALTH (126)

“ 新型コロナウイルス感染 ⑤0 ”

～ 最終章 ⑤ “ NHK『フェイク・バスターズ』についても 国民に 謝罪を！ ” ～

はじめに NHK「ニュース ウォッチ 9」の “ 放送倫理違反 ” について

2023年5月15日、NHKの報道番組「ニュース ウォッチ 9」で、COVID-19 ワクチン接種直後に家族（夫、父、母）が亡くなったと（ワクチン被害を）訴える「繋ぐ会（ワクチン被害者遺族の会）」の会員遺族 3 人のインタビュー動画が紹介された。番組は、ワクチン接種後の死亡という**事実を隠蔽**し、あたかも故人 3 名がコロナに感染して亡くなった（感染死）かのように誤認させるべく、**意図的に偽って**報じていたと思われた。

◆ 5月16日、不誠実で、納得のいかない謝罪

番組で紹介された3遺族と繋ぐ会は、NHK に抗議して謝罪を求め、翌16日、NHKは番組の最後に田中キャスターが謝罪した。「昨夜の放送で新型コロナ 5 類移行から 1 週間、戻りつつある日常と題しておよそ 1 分間の VTR を放送し、ツイッターなどでも配信しました。この中で、ご遺族と紹介して 3 人のインタビューをお伝えしましたが、この方達はワクチンを接種後に亡くなった方のご遺族でした。このことを正確に伝えず、新型コロナに感染して亡くなったと受け取られるように伝えてしまいました。取材では、ワクチン接種後に亡くなった方のご遺族だと認識していました。番組はコロナ禍を振り返り、ご遺族の思いを伝えるという考えで放送しましたが、適切ではありませんでした。取材に応じてくださった方や視聴者の皆様に深くおわび申し上げます」などと謝罪したが、**不誠実**で、とても遺族・繋ぐ会・視聴者を**納得させるものではなかった**。



◆ 7月21日、NHK 報道局職員らを懲戒処分

2カ月余り後、NHKの中嶋太一理事が、担当した職員や上司らを14日間の出勤停止とするなど、あわせて4人の懲戒処分を発表した。WEBサイトに報告書 “ 「ニュースウォッチ9」報道について（新型コロナ関連動画）2023年7月21日 日本放送協会 PDF9ページ ” が公開された。報告書によると、番組は「事前に十分**説明せず**、**理解を得ず**」に取材され、「趣旨を的確に**伝えず**、**事実をゆがめ**、**誤解を与える**よう」に編集され、「担当者間で議論を**尽くさず**」に提案され、「共通の認識を**持たず**」に制作されたのであった。NHKは「再発防止に向けて全局的な取り組みを進め、信用の回復に努めて参ります。」と謝罪した。

「ニュースウォッチ9」報道について
(新型コロナ関連動画)

2023年7月21日

日本放送協会



◆ 12月5日、BPO NHK報道番組に「放送倫理違反」

放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送倫理検証委員会は、12月5日、この「ニュース ウォッチ 9」の報道に対し、「事実を**正確に伝える**という**基本を逸脱**した」「取材の**基本をおろそかにし**、**チェック機能の不備**も重なった」などとして、「“放送倫理違反”があった」とする意見を公表した。



NHK『フェイク・バスターズ』（2021.8.10）の “不公平報道” も “放送倫理違反” ？

◆ ワクチン「緊急承認」前 ファイザー社 元・副社長 マイケル・イードン博士の「緊急請願・申立て」について

mRNA ワクチン開発の最終段階に入っていた 2020 年 12 月 1 日、元・Pfizer 社の副社長兼最高科学責任者の Michael



Yeadon 博士は、欧州評議会の保健衛生委員会委員長 Wolfgang Wodarg 博士との連名で、EU 政府の欧州医薬品庁 EMA に対して『全ての新型コロナワクチンの研究（第Ⅲ相臨床試験）の中止』を要求して緊急請願・異議申し立てを行なった。

しかし、EU 政府はファイザー／ビオンテックのワクチンを緊急承認し、申立てから3週後の12月下旬から接種を開始した（本通信 No.87《2020.12.28》に詳述）。

この mRNA ワクチンにはスパイク蛋白（Syncytin-1）

が含まれ、女性は『不妊症』になってしまう危険性があるなど、『PEG の副反応』『抗体依存性感染増強』『サイトカインストーム』『自己免疫疾患』等の懸念事項について警告していた。



（43 ページにわたる申立書）

◆ イードン博士に対する EU メディアの誹謗中傷・迫害、有害事象の早期出現

Yeadon 博士は、mRNA ワクチンには複数（5 つ以上）の独立した、明らかな構造上の欠陥・害があるとして懸念を示し警告を発していた。EU のメディアは Yeadon 博士らに襲いかかり、国営放送は誹謗中傷し、多くのオンライン・プラットフォームは博士らを弾き出していた。しかし、EU で大規模なワクチン接種が始まってから（ピーク 2021 年 6 月）1 カ月も経たないうちに、Yeadon 博士らが懸念していた事柄のうち、「生殖毒性 ≡ 不妊症」を除く全ての有害事象が発生し、Yeadon 博士の主張の正しさが証明された形となってきた。「生殖毒性」も 1 年後には「出生率の低下」「早産」「奇形児出産」「死産」という形で明らかに（2022 年 3 月以降）なってしまった。（本通信 No.120《2023.3.5》詳述）。

◆ NHK『フェイク・バスターズ』：イードン博士を「誤った主張の発信源」として中傷

Yeadon 博士の申立てから 8 ヶ月後、NHK は 2021 年 8 月 10 日、NHK 特集『フェイク・バスターズ』で、Yeadon 博士を「ファイザー社元職員」と蔑視扱い（？）し、博士の発言を全否定し、デマ情報を発信する中心人物と断定し、「政府・厚労省が発信する情報＝正しい情報」「ネット上に拡散する情報＝デマ」と報じていた。（本通信 No.98《2021.8.15》に詳述）

ワクチンメーカーや WHO、政府、「こびナビ」などの当時の接種推進派の情報のみを正しい情報として誤って伝えていた公共放送 NHK の報道の在り方は責任重大である（個人的見解）。製薬会社、厚労省などの公衆衛生当局、WHO・CDC・FDA などの医療官僚機構という少数派（？）の情報のみを正しい情報として、公共放送・NHK などのマスメディアが偏った報道をすることによって、政府・厚労省・NHK が間違ったことを言うわけがないという“性善説”を有する一般大衆・善良な視聴者の多くが、その危険な少数派の誤った情報を信じ、あるいは、同調圧力に負けてしまい、8 割強の善良なる日本国民がワクチンを接種してしまった。2 割弱の未接種のワクチン慎重派・懐疑派が支持する良識ある真の専門家・科学者・研究者・医師集団・ノーベル賞受賞科学者らの警告・主張は全てデマ扱いされ、このいわゆる“コロナ禍”という“ワクチン災禍”に繋がってしまったのである（個人的見解）。



◆ NHK『フェイク・バスターズ』の不公平報道も放送倫理違反？

2021 年 2 月 14 日緊急承認、2 月 17 日から医療従事者への優先接種で始まった人類史上初の mRNA ワクチンの臨床人体実験。26 歳女性医療従事者（看護師）のワクチン接種後死亡事例（3 月 19 日接種、23 日死亡確認、死因：小脳出血・クモ膜下出血、因果関係：評価不能＝？）については、報道のプロ集団ならば当然、周知のはず。世界中のワクチン接種後死亡事例報告についても知っていなければならないはず。取材時には既に、不妊症を除く全ての有害事象は出そろっていたはず。Yeadon 博士の主張を“誤った主張”と断定した根拠は一体どこに？ 是非、視聴者・国民に説明して頂きたい。

NHK・民放各局、ワクチン推進派（似非専門家？～タレントまで）は国民に謝罪を！

Yeadon 博士らワクチン慎重派・懐疑派の科学者・専門家・医師らの警告・主張が正しかったことを、今、歴史（2021～2023 年）が証明してくれた。NHK・民放各局などのマスメディアが、良識ある専門家・科学者・識者の警告を「フェイクニュース扱い」「デマ扱い」したため、多くの日本国民へのワクチン接種は中止されず、「超過死亡 40 万人超」という大惨事・ワクチン災禍が起こってしまったのである（個人的見解）。著名人の中には、ワクチン反対派に対して「社会から消えろ！」「全員馬鹿です」「IQ 低いです、馬鹿じゃないの？」などと言っていた者もいたが、彼らも謝罪すべきだと、私は思う。

おわりに NHK に求めます・・・「クロ現」で検証、「NW9」で謝罪を！